

委託事業実施内容報告書

平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

受託団体名 (公財)神戸国際協力交流センター

1. 事業名称

地域と連携した「やさしい日本語」による生活情報を活用した日本語教育

2. 事業の目的

「やさしい日本語」による神戸の生活情報について教材を作成し、「やさしい日本語」による日本語教室を実施することで、より学習しやすい、「やさしい日本語」による日本語教育を実践する。

地域の日本語教室との情報交換・意見交換を行い、また、「やさしい日本語」による日本語教材や日本語教室の実施結果について情報提供を行うことで、地域の日本語教室における日本語教育の充実をはかる。

3. 事業内容の概要

神戸市内・神戸市近郊で活動している日本語教室・日本語支援者間の連携会議を開催し、日本語教育に関する情報を提供するとともに、各教室・各支援者の活動状況や課題について情報交換・意見交換をしていただいた。

また、外国人学習者が基本的な日本語を学習しながら、神戸市の生活情報や行政サービスに関する知識をあわせて取得できる、「やさしい日本語」で説明した教材を作成し、この教材や、その他の生活情報を使い、生活に密着した日本語を学ぶことができる日本語教室を開催した。

さらに、これらの教材や日本語教室の実施について、地域の日本語支援者に発信した。

4. 事業の実施体制について

地域の日本語教室の連携会議の開催準備にあたっては、地域の日本語教室のコーディネーターの協力を得ながらプログラムを作成し、実際開催した際には、地域の教室からも多く会議に参加していただいた。

「やさしい日本語」の生活情報教材については、日本語教育専門家(水野マリ子氏ほか大学講師4名)や、「やさしい日本語」普及事業に実績のある民間団体(神戸YWCA主任講師・斎藤明子氏ほか講師3名)と連携・協力して作成を行った。

また、日本語教室については、県内の各地で日本語教育を行っている支援者の集合したボランティア団体(代表・村山勇氏、コーディネーター・尾形文氏)であるひょうご日本語ボランティアネットワークに再委託し、実施した。

また、外国人コミュニティ「ひょうごラテンコミュニティ」の代表である大城ロクサナ氏や、神戸市国際交流推進部、神戸市広報課職員に運営委員に就任いただき、在住外国人支援や行政情報の効果的な発信の視点から随時意見をいただきながら進めた。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	水野 マリ子	神戸大学留学生センター
2	斎藤 明子	(公財)神戸YWCA
3	村山 勇	兵庫日本語ボランティアネットワーク
4	尾形 文	兵庫日本語ボランティアネットワーク
5	大城 ロクサナ	ひょうごラテンコミュニティ
6	豊島 英明	神戸市市長室国際交流推進部
7	南部 法行	神戸市市長室広報部広報課
8	小野 知哉	(公財)神戸国際協力交流センター

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成27年4月27日(月) 13:00~14:15	1時間 15分	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	水野マリ子、斎藤明子、村山勇、古賀映子(国際交流推進部)、橋本暁彦(広報課)、小野知哉、杉山あゆみ、矢野雅子	1. 運営委員会の設置について 2. 事業の概要について 3. 運営委員会における検討内容及びスケジュール 4. 各事業の進め方 (1)取組1 地域日本語教室連携会議 取組3 地域の日本語教室と連携した「やさしい日本語」による生活情報の発信 (2)取組2-① 生活情報を教材とした日本語教室の開催(村山委員より) (3)取組2-② 神戸リビングガイドの「やさしい日本語」生活情報の作成 5. その他

2	平成27年10月14日(水) 13:00～15:00	2時間	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	水野マリ子、斎藤明子、村山勇、尾形文、古賀映子(国際交流推進部)、橋本暁彦(広報課)、小野知哉、杉山あゆみ、矢野雅子	1. 事業の確認について 2. (取組1)地域日本語教育連携会議 (取組3)地域の日本語教室と連携した「やさしい日本語」による生活情報の発信について 中間検証 3. (取組2-①)生活情報を教材とした日本語教室の開催について 中間検証 4. (取組2-②) 神戸リビングガイドの「やさしい日本語」生活情報の作成 中間検証 5. その他
3	平成27年4月27日(月) 13:00～14:40	1時間40分	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	水野マリ子、斎藤明子、村山勇、尾形文、大城ロクサナ、古賀映子(国際交流推進部)、橋本暁彦(広報課)、小野知哉、杉山あゆみ、矢野雅子	1. 事業の確認について 2. (取組1)地域日本語教育連携会議について 3. (取組2-①)生活情報を教材とした日本語教室の開催について 4. (取組2-②) 神戸リビングガイドの「やさしい日本語」生活情報の作成 5. (取組3)地域の日本語教室と連携した「やさしい日本語」による生活情報の発信 6. 検証・評価 7. その他

6. 取組についての報告

取組1:地域日本語教育連携会議

(1)体制整備に向けた取組の目標

外国人市民が必要としている情報の収集及び地域の日本語教室における日本語教育の質の向上をはかるとともに、外国人市民への生活情報発信を強化する。

(2)取組内容

神戸市内・神戸市近郊で活動している日本語教室・日本語支援者間の連携会議を開催し、日本語教育に関する情報を提供するとともに、各教室・各支援者の活動状況や課題について情報交換・意見交換をしていただいた。

(3)対象者

神戸市内・神戸市近郊で活動している日本語教室・日本語支援者

(4)参加者の総数 46 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 0 人

(5)開催時間数(回数) 5時間25分 (全 2 回)

(6)活動の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	会議概要	指導者名	補助者名
1	平成27年8月25日(火) 13:30～16:15	2時間45分	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	22人	日本語指導の振り返りと指導者間の情報交換	(第1部)「地域の日本語教室」 (第2部)「日本語指導の方法についての情報交換会」		
2	平成28年2月22日(月) 13:30～16:10	2時間40分	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	24人	生活情報を使った日本語教材活用方法	(第1部)1.「やさしい日本語生活情報教材」の紹介(KICC事務局) 2. 講演「生活情報を活用した日本語教育について」 (第2部)ワークショップ「生活情報を活用した教え方について考えよう」		

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【第1回 平成27年8月25日(火)】

(第1部)「地域の日本語教室」

- ・神戸市内の日本語教室、KFCの紹介、日本語学習記録簿について
- ・学習者の学習実態、指導全般についてのふりかえり 等

(第2部)「日本語指導の方法についての情報交換会」

- ・日本語指導に関して、気になっていること、困っていること、意見を聞いてみたいことについて他の指導者や他の教室の指導者と意見交換



活動例②

【第2回 平成28年2月22日(月)】

(第1部)

1. やさしい日本語生活情報教材「神戸の生活」の紹介
2. 講演「生活情報を活用した日本語教育について」
 - ・生活情報を活用した日本語教室の実践報告

(第2部)

ワークショップ「生活情報を活用した教え方について考えよう」

- ・生活情報を使って教える方法について
- ・日本語指導に関して、気になっていること、困っていること、意見を聞いてみたいことについて他の支援者や他の教室の支援者と意見交換



(8) 目標の達成状況・成果

第1回の会議では、神戸市内及び近郊の14の日本語教室で活動する支援者22人に参加いただき、第2回の会議では、12の教室で活動する参加者支援者24人に参加いただくことができ、教室間の情報交換、意見交換を行っていただくことができた。

第1回の会議のアンケートの「意見交換」の項目でも、回答者の90%が、「たいへんよかった」あるいは「よかった」と回答しており、自由記述でも、「違った教室の活動をしている方々との会合は得ることが多い」、「ベテランのノウハウがたくさん聞けて非常に良かった」、「共通の悩みについて、解決を目指すのは重要」、といった意見をいただいた。

第2回の会議のアンケートでも、「ワークショップ」の項目で、回答者の77%が「たいへんよかった」あるいは「よかった」と回答しており、自由記述でも、「同じ(ワーキング)グループの方々がどのような教え方をされているか知れて楽しかった」、「各人の経験が全然違うので、一つのテーマについて議論するのは、大変参考になりました。」といった意見があった。

また、外国人市民が必要としている情報の収集についても、普段外国人学習者と直接関わっている日本語支援者から、日本での生活に関わるどんな相談を受けたことがあるか、どのような行政支援が必要だと感じるか、といった項目についても、回答を得ることができた。

(9) 今後の改善点について

第1回の会議のアンケートで、「課題は色々明らかになったが、改善に至らず、毎回このような中途半端なディスカッションを繰り返している」といった回答があり、この意見をふまえ、中間の運営員会において、テーマを絞ること、グループ内で意見を導けるリーダーを設定すること、全体にファシリテーターを置くこと、などの意見が出た。

これを踏まえ、第2回の会議では、「生活情報教材の活用」に意見交換テーマを絞るとともに、経験の豊富な支援者をグループを分けて配置する、ファシリテーターを依頼するなどし、各グループで意見をまとめていただくことができた。

一方で、最終の運営委員会では、第2回の会議で意見をリードしていただくために、経験の豊富な人・浅い人を一緒にグループにしたことについて、経験の長さでグループを分けた方が議論のレベルが合うというご意見もあった。

日本語教室を横断した連携会議を開催するためには、各教室の運営者や支援者に興味を持って参加してもらえるテーマを選ぶこと、有意義な意見交換ができる環境を設定することが必要である。

取組2①:生活情報を教材とした日本語教室の開催

(1)体制整備に向けた取組の目標

外国人学習者が基本的な日本語を学習しながら、神戸市の生活情報や行政サービスに関する知識をあわせて取得する。また、地域の日本語教室にも、生活情報を教材とした日本語支援について紹介できるよう、指導法の検証を行う。

(2)取組内容

「兵庫日本語ボランティアネットワーク」と連携し、地域の生活情報を中心とした日本語学習テキストや、行政サービスに関する情報を教材に、「やさしい日本語」による日本語教室を開催した。

(3)対象者

神戸市内および近郊に在住する日本語非母語話者

(4)参加者の総数 26 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 26 人

【出身・国籍別内訳】

中国	5人	インドネシア	1人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。 ・ウクライナ 1人 ・アルゼンチン 1人 ・インド 1人 ・台湾 2人 ・アメリカ 2人 ・イギリス 1人 ・スリランカ 1人 ・モンゴル 1人 ・ドミニカ 1人
韓国	3人	タイ	3人	
ブラジル	0人	ペルー	0人	
ベトナム	1人	フィリピン	1人	
ネパール	0人	日本	0人	

(5) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年9月4日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	10人	自己紹介	・オリエンテーション ・受講カードの作成 ・こうべを楽しもう (世界の中の日本、神戸の位置) ・自己紹介メモの作成・自己紹介(学習者個別) ・次回の予告	長嶋 昭親	高橋博子、 吉田直美
2	平成27年9月11日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	10人	自然災害について	・アイスブレイク ・こうべを楽しもう 身近な自然災害(大雨、大雪、台風、地震、津波、雷、竜巻、イノシシ) ・紙芝居のセリフを作る(モデル、班分各自でセリフ作成) ・次回の予告	長嶋 昭親	高橋博子、 吉田直美

3	平成27年9月18日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	11人	災害への対処について その1	・導入(9.17チリ地震による津波) ・紙芝居(「つなみからにげよう」)班別セリフ確認 ・同班別発表 ・南海トラフ巨大地震がおきたら神戸への到達時間と高さ ・学習者各自の地域の到達時間と高さ ・地震発生時の居場所によってどう対処するか ・各学習者の地域の地図と避難所 ・各学習者、安全マップを作る ・KICC防災カードの説明 ・次回の予告	長嶋 昭親	高橋博子、 吉田直美
4	平成27年9月25日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	10人	災害への対処について その2	・大きな被害にあったら最初に何をするか ・伝言電話171のかけかた ・ライフラインが切断したらどうなるか ・その時どうしたらいいか ・そのために何を準備しておくか ・非常用袋と入れるもの ・長期避難のために用意しておく物 ・常時携帯しておくもの・・・非常用ポーチ ・日常生活上の災害について ・そのときどうするか ・学習者の国の緊急電話番号 ・110、119のかけかた ・次回予告	長嶋 昭親	吉田直美
5	平成27年10月2日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	6人	病気 その1:症状の伝え方	・病気になったとき ・病状、症状を言う。適切な医者を選ぶ ・119の電話のかけ方の復習をする ・次回の予告	高橋 博子	吉田直美 長嶋 昭親
6	平成27年10月9日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	10人	病気 その2:病院	・日本の病院のシステム ・診察の順序 ・問診票 ・健康保険 ・次回の予告 ・消防署を見学する(所在地、集合場所、集合時間などを書いたプリントをもとに説明)	高橋 博子	吉田直美 長嶋 昭親
7	平成27年10月16日 (金) 13:30～15:30	2	神戸中央消防署	11人	消防署見学	・JR三ノ宮で集合 ・徒歩で現地(神戸中央消防署)誘導 ・消防署担当者から消防署の役割の概要を聞く ・119の電話の仕方について実習 ・消防署内見学 1.トレーニング室など 2.中央署にある救急車、消防車の説明を聞く 3.出動消防隊員の装備について実演見学 4.消防車の消火設備について見学 5.消火器を使い方実習 ・現地解散	長嶋 昭親	高橋博子、 吉田直美

8	平成27年10月23日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	8人	病気 その3:薬	・診察での医者との会話の復習 ・病院内での流れ ・内服薬と外用薬 ・薬局、ドラッグストアで薬を買う ・薬の種類 ・薬の飲み方 ・緊急の場合にどうするか？	高橋 博子	吉田直美 長嶋 昭親
9	平成27年10月30日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	7人	ゴミの分別について	・神戸市環境局職員紹介 ・ごみの種類と指定袋 1.ごみカードによる分別実習 2.市職員による判定と正しい分別法 ・危険なごみ(ガスボンベ)の処理法(市職員)と燃えないごみ ・大型ごみの回収申し込み電話の掛け方:実習 ・電気製品の処理法 ・パソコンの処理法 ・地域の資源回収について ・ごみの行方 ・次回授業予告	長嶋 昭親	高橋博子、 吉田直美
10	平成27年11月6日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	9人	地球温暖化とリサイクル	・テーマ「地球温暖化とリサイクル」 1.今地球は？ 地球環境の変化やその原因を考える。 2.その主な原因の地球温暖化について 地球温暖化防止のためにしていること 3.私たちがそのためにできること ①リサイクル:リサイクルマークの意味を発表 ②日常生活でできることリストに記入および発表 ・次回予告	長嶋 昭親	高橋博子、 吉田直美
11	平成27年11月13日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	11人	神戸 その1:どこにあるの？	・〇〇さんのくにはどこですか？ ・世界地図から神戸の場所を確認 ・神戸の観光地を見る ・観光地の行き方—交通手段 ・運賃と入場料、切符 ・約束に遅れた理由を言う	高橋 博子	長嶋 昭親 吉田直美
12	平成27年11月20日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	7人	神戸 その2:観光地と交通機関	・日本はどなんくにですか？ ・神戸の観光地 六甲山 ・行った(食べた)ことがあります ・遠くへ出かけてみよう ・日本の観光地を映像でめぐる ・交通機関と費用 ・お金と時間が十分にあったらどこに行きますか？	高橋 博子	吉田直美
13	平成27年11月27日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	8人	買い物	・どこで何を買いますか？ 食糧 日用品 服 化粧品など ・売り場を尋ねる ・売り場 レジ袋 レシート ・アレルギー物質について ・カレーの材料を買う ・100円ショップのすぐれものの発表	高橋 博子	長嶋 昭親 吉田直美
14	平成27年12月4日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	5人	明石海峡大橋見学	・明石海峡大橋見学 1:00 JR三宮集合 - ブロムナード見学 3:00 JR舞子で解散	高橋 博子	長嶋 昭親 吉田直美

15	平成27年12月11日 (金) 13:30～15:30	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	7人	学習のまとめ	・テーマ「講座のまとめ」 1. 前回の明石海峡大橋見学の報告 2. 折り紙(鶴など)を折る 3. 講座のアンケート実施 4. 茶話会で講座の感想を話し合う	長嶋 昭親	高橋 博子
----	-----------------------------------	---	-----------------------	----	--------	---	-------	-------

②中級クラス

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年9月2日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	6人	自己紹介	・オリエンテーション ・受講カードの作成 ・世界の中の日本、神戸の位置 ・講師・補助者の自己紹介 ・各受講生の自己紹介メモの作成 ・日本語を必要とする場面の申告 ・次回の予告	村山 勇	櫻井 久子
2	平成27年9月9日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	3人	私の国 その1	・私の国の発表 (インド、台湾)	村山 勇	櫻井 久子
3	平成27年9月16日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	6人	私の国 その2	・私の国の発表 (ドミニカ、インドネシア、 フィリピン、中国2)	村山 勇	櫻井 久子
4	平成27年9月30日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	6人	わたしのこと その1	・私のことの発表 (インド、ドミニカ) ・関西弁、若者言葉	村山 勇	櫻井 久子
5	平成27年10月7日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	8人	わたしのこと その2	・私のことの発表 (インドネシア、フィリピン、 台湾、中国) ・慣用句 ・区役所の証明書の書き込み	村山 勇	櫻井 久子
6	平成27年10月14日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	5人	病院	・病院の初診表の書き込み	村山 勇	櫻井 久子
7	平成27年10月21日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	8人	買い物 その1	・スーパーの広告ちらし	村山 勇	櫻井 久子
8	平成27年10月28日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	7人	買い物 その2	・デパートの広告ちらし ・百円ショップの品物 ・私のことの発表 (タイ、スリランカ、アメリカ)	村山 勇	櫻井 久子
9	平成27年11月4日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	5人	ゴミの出し方	・ごみの出し方 (神戸市のごみ収集パンフレット) ・私の国の発表(アメリカ)	村山 勇	櫻井 久子
10	平成27年11月18日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	7人	救急と消防	・救急、消防 (神戸を楽しもう)	村山 勇	櫻井 久子

11	平成27年11月25日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国 際協力交流セン ター 会議室	5人	人と未来防災センター 見学	「阪神・淡路大震災 人と未来防災センター」見学	村山 勇	櫻井 久子
12	平成27年12月2日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国 際協力交流セン ター 会議室	4人	発表	・日本へ来て驚いたことの発表 (インド、インドネシア、タイ)	村山 勇	櫻井 久子
13	平成27年12月9日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国 際協力交流セン ター 会議室	5人	発表	・日本へ来て驚いたことの発表 (ドミニカ、タイ、スリランカ)	村山 勇	櫻井 久子
14	平成27年12月16日 (水) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国 際協力交流セン ター 会議室	6人	文化体験 その1	・日本文化を体験しよう 茶道 落語	村山 勇	櫻井 久子
15	平成27年12月21日 (月) 10:00～12:00	2	(公財)神戸市国 際協力交流セン ター 会議室	3人	文化体験 その2	・日本文化を体験しよう 年賀状を書いてみよう	村山 勇	櫻井 久子

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【第9回27年10月30日】初級クラス

この日は、ゴミの分別の仕方、大型ゴミの出し方、また、どこにいつ出したら分からない不明ゴミを学習者に持って来てもらい、環境局の方にご指導頂きました。環境局の方は、ゆっくり分かりやすく教えて下さいました。

机に、各種ゴミ袋を貼り付け、家庭で出るような一般的なゴミをカードにして学習者に配布。その後、学習者に分別してもらいました。環境局の方に答え合わせをして頂き、間違っものは正しい分別の仕方を教えて頂きました。

大型ゴミをどう処分するか、もそれぞれカードを用意し環境局へ電話し、いつ、どのようにして出すか、等を教室で一人一人練習しました。環境局の方が、名前、住所、何を処分したいのか、コンビニ等でいくらのシールを買って、いつどこにどのようにして出すか、を教室の中で学習者との電話のやりとりを通してゆっくりと出来るだけ簡単に分かり易い説明で教えて下さいました。

この学習を通して、今後日本での生活の中で大型ゴミを出す時は、この経験が生かされるとおもいます。

(補助者: 吉田直美)



活動例②

【第14回平成27年12月16日】中級クラス

この日は学習者たちに日本文化を体験してもらった。落語を趣味に持つ当クラスの指導者(村山)と、茶道の講師である補助者(櫻井)が、それぞれに日本文化を披露した。

まず、茶道では櫻井がお茶の点てかたを説明し、季節の和菓子とともに学習者に飲んでもらった。次に、学習者が点てた茶を他の学習者が運び、その際、茶道特有の日本語も提示し、学習者にも復唱してもらった。

次に落語では、村山が動物園を題材にしたネタを披露した。このネタは日本語学習者用にということで、平易な日本語に直したものであるため、このクラスの学習者たちにも理解できたようだ。日本人の私が笑う場面では、学習者も笑っていた。村山の落語の後、一人の学習者(男性)が村山の来ていた着物を着たいと言いだしたので、村山が着せる場面も見られた。

(コーディネーター:尾形文)



(8) 目標の達成状況・成果

今回の日本語教室では、学習者たちがよりよい生活ができるようにという目的のもと、日本語能力の向上と、神戸で生活をするうえで知っていると便利だと思われる生活情報などを提供した。全体の活動は、兵庫日本語ボランティアネットワークがこれまで取り組んできた、学習者の自律を促進する学習方法である自己主導型学習を取り入れた。過去には、指導者が自己主導型学習を理解していないため、学習目的に合わないなどの学習者からの不満がでたこともあった。今年度は、5名のスタッフが指導者と補助者となり教室を運営したのだが、彼らが自己主導型学習に慣れてきたこともあり、日本語学習、生活情報、文化などをバランスよく取り入れ、スムーズな教室運営ができたようだ。

それは、アンケート結果からもうかがえる。学習者たちは、概ね日本語能力が向上したと感じ、生活面でもこれまでより生活しやすくなったと感じている。自己主導型学習は、学習者の自律を育てる方法であり、日本語学習だけではなく、学習者の日常の行動そのものが自律的になり、社会で生き生きと生活できるようになってもらうために行っている。そういった意味では、今回の日本語教室は学習者にとって、十分に意義のあるものだったと考えられる。

(9) 今後の改善点について

各クラスの指導者と補助者は、自分たちが考えたテーマをもとに、学習者の様子を見て随時内容を変更しながら活動を進めていた。これは、学習者を尊重するという点で非常に大切なことである。しかし、今回の事業では、指導者と補助者が、自分のクラス以外の担当者と情報を交換しようとする姿勢がほとんど見られなかった。そのため、初級クラスと中級クラスで、活動内容に偏りが見られる。初級クラスでは、災害関連と病気に関する時間が多く、中級クラスでは、自分や自国についての発表に時間をかけていたようである。もし、両方のクラスの担当者が意見交換をする時間があつたなら、もう少し偏りのない活動内容にできたのではないだろうか。

このことは、コーディネーターの責任でもある。各クラスの担当者には、毎回の活動を関係者全員に一斉にメールで報告するように伝えてはいたものの、意見交換の場として設定はしていなかった。今後は、事業に関わる者どうしが気軽に意見を交換できる場を設定することが必要だと感じた。

取組2②:「やさしい日本語」による生活情報教材の作成

(1) 体制整備に向けた取組の目標

行政からの情報を含む生活に密着した「生活者としての外国人のための日本語教育」を行えるよう、「やさしい日本語」を活用した生活情報に関する日本語学習教材を作成し、域内の日本語支援団体等がリソースとして活用できるようにする。

(2) 取組内容

外国人市民向けの生活情報・行政サービスに関する情報等、生活に密着したより実用的な情報を題材に、「やさしい日本語」による日本語教育を行うための教材を作成した。

(3) 対象者

神戸市内の日本語支援者等

(4) 参加者の総数 55 人

そのうちの日本語学習者数 0 人

(5) 会議開催時間数(回数) 2 時間 (全 3 回)

(6) 活動の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	具体的内容	指導者名	補助者名
1	平成27年6月3日(水) 15:30~16:30	1時間	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	6人	やさしい日本語生活情報教材の作成について	1. 作業分担決定 2. 作業の流れ及び編集データの取り扱いについて 3. 編集規則の確認 4. その他編集作業における意見調整		
2	平成27年8月25日(火) 13:30~13:50	20分	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	22人	やさしい日本語生活情報教材の見本公開・意見募集	取組1の第1回「日本語教育連携の集い」において、作成中の教材の一部を日本語学習支援者に配布し、教材の内容への意見を収集した。		
3	平成28年2月22日(月) 13:30~14:00	30分	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	24人	やさしい日本語生活情報教材提供・意見募集	取組1の第2回「日本語教育連携の集い」において、やさしい日本語生活情報教材を配布し、活用についての意見を収集した。		

(8) 目標の達成状況・成果

日本語教育専門家や、「やさしい日本語」普及事業に実績のある団体と連携・協力して教材作成に取り組み、くらしの手続き、仕事、住まい、トラブル、福祉、子育て・教育などについて、神戸市在住外国人向けに実態に合わせた生活情報をまとめることができた。また、学習者が支援者と共に情報を読み解き、書き込みながら理解を深められるワークシートを、必要な項目ごとに作成した。

取組1の第1回「日本語教育連携の集い」において、参加者である地域の日本語教育支援者に、作成中のやさしい日本語生活情報教材を提示するなど、意見を集め、反映させながら作成に取り組んだ。

第2回「日本語教育連携の集い」においては、参加者である地域の日本語教育支援者に、やさしい日本語生活情報教材を配布し、日本語教材としての活用についてアンケートを収集したところ、「学習者さんの生活に必要なことが分かりやすく書かれているので、活用していくつもりです。」「学習者は生活情報に飢えているので、日本語教材として十分活用できると思います。」「活用できる。必要な部分を取り出しても使えそうで柔軟に使える。」など、活用に前向きな意見を多くいただいた。

(9) 今後の改善点について

行政情報等については制度が変更するものも多いので、情報の部分については、修正を続けることが重要である。

取組3: 地域の日本語教室と連携した「やさしい日本語」教育の発信

(1) 体制整備に向けた取組の目標

作成した「やさしい日本語」による生活情報教材や実施した「やさしい日本語」による日本語教室の実施結果等を地域の日本語教室に対して紹介することにより、「やさしい日本語」による日本語教育を地域に広める。

(2) 取組内容

取組2-②で作成した「やさしい日本語」による生活情報教材や取組2-①で実施した「やさしい日本語」による日本語教室の実施結果等について、地域の日本語支援者への発信を行った。

(3) 対象者

神戸市内の日本語支援者

(4) 参加者の総数 49 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 0 人

(5) 開催時間数(回数) 1時間30分 (全 2回)

(6) 活動の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	取り組み内容	指導者名	補助者名
1	平成28年2月22日(月) 13:30~14:30	1時間	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	24人	生活情報を使った日本語教材活用方法	地域の日本語支援者に対して、 ・取組2①の生活情報を活用した日本語教室の実践結果報告 ・取組2②やさしい日本語生活情報教材の配布及び紹介を行った。		
2	平成28年3月4日(金) 15:30~16:00	30分	(公財)神戸市国際協力交流センター 会議室	25人	日本語サポーター実践講座	日本語支援者に対して、やさしい日本語生活情報教材を配布・紹介した		

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

活動例①

【第2回「日本語教育連携の集い」平成28年2月22日(月)】

1. やさしい日本語生活情報教材「神戸の生活」の紹介

市内の12の教室で活動する参加者支援者24人にやさしい日本語生活情報教材を配布し、作成意図や内容、使い方について説明を行った。また、使い方に関する質疑応答を受け付けた。

2. 講演「生活情報を活用した日本語教育について」

生活情報を活用した日本語教室を実践した報告を、取組2①の実施団体の代表である村山氏に行っていただいた。生活情報の教材としての扱い方や、実際の生活上の行動を用いた日本語の支援の仕方、授業の進め方、効果的な板書の仕方などについて、豊富な日本語指導経験から、地域の日本語支援者に対して講演していただいた。



活動例②

【平成28年3月4日(金)】

当センターが主催している、日本語支援者向けのスキルアップ研修において、参加者に対し、やさしい日本語生活情報教材を配布し、趣旨・内容・使い方について説明し、教材として使っていただくようお願いした。

(8) 目標の達成状況・成果

生活情報を活用した日本語教室の実践結果及び、やさしい日本語生活情報教材について、地域の日本語支援者の連絡会議や、日本語支援者の研修の場で発信を行った。

やさしい日本語生活情報教材については、連携会議で市内の日本語教室からの参加者に対して配布・説明を行ったほか、会議に参加できなかった教室にも教材を郵送するとともに活用を依頼し、22の教室に配布を行った。

教材紹介及び生活情報を活用した日本語教室の実践結果報告については、参加者アンケートでも、94%の方が「大変良かった」または、「良かった」と回答しており、日本語教室の実践結果報告については、「実際にされた様子を詳しく話して下さって大変参考になった」、「生活にすぐ役立つ日本語が必要だから、学習者にとって本物の生活情報を用いることは大切だと思う」、「具体的な指導例をご紹介いただき、参考になることがたくさんありました。」といった意見をいただいた。

(9) 今後の改善点について

今後も、日本語支援者の集まる機会をとらえて、生活情報を活用した日本語教育及びやさしい日本語生活情報教材について、発信を行っていく。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

「やさしい日本語」による神戸の生活情報について教材を作成し、「やさしい日本語」による日本語教室を実施することで、より学習しやすい、「やさしい日本語」による日本語教育を実践する。

(2) 目的・目標の達成状況

2回の「日本語教育連携の集い」を通して、神戸市内及び近郊の17の日本語教室から日本語支援者46人に参加いただき、教室間の情報交換、意見交換を行っていただくことができた。

1回目は日本語指導の方法における課題について、2回目は生活情報を活用した日本語教育について意見交換を行っていただき、参加者アンケートでも回答者の84%が、「たいへんよかった」あるいは「よかった」と回答している。

日本語教室では、学習者たちがよりよい生活ができるようにという目的のもと、日本語能力の向上と、神戸で生活をするうえで知っていると便利だと思われる生活情報などを提供した。学習者の自律を促進する学習方法である自己主導型学習を取り入れ、日本語学習、生活情報、文化などをバランスよく取り入れ、スムーズに教室運営を行った。アンケート結果からも学習者たちが、概ね日本語能力が向上したと感じ、生活面でもこれまでより生活しやすくなったと感じていることがうかがえる。

やさしい日本語生活情報教材については、神戸市在住外国人向けに実態に合わせた生活情報をまとめるとともに、学習者が支援者と共に理解を深めるワークシートを、必要な項目ごとに作成することができた。やさしい日本語生活情報教材を地域の日本語教育支援者に配布したところ、活用していきたいという意見を多くいただいた。

また、生活情報を活用した日本語教室の実践結果及び、やさしい日本語生活情報教材について、地域の日本語支援者の連絡会議や、日本語支援者の研修の場で発信を行い、やさしい日本語生活情報教材の紹介と、生活情報を活用した日本語教室の実践結果報告については、参加者アンケートでも、94%の方が「大変良かった」または、「良かった」と回答しており、教材・指導法共に、今後の日本語教育活動に活かしたいとの意見をいただいている。

(3) 地域における事業の効果、成果

市内では多くの団体が日本語教育を行っており、日本語教育体制は充実してきている一方で、外国人に身近な日本語学習指導者が生活相談を受けることも増加しており、暮らしに必要な行政情報や生活情報が外国人市民に行き届いていないという状況があった。

そこでまず第1回目の「日本語教育連携の集い」において、普段外国人学習者と直接関わっている日本語支援者から、日本での生活に関わるどんな相談を受けたことがあるか、どのような行政支援が必要だと感じるか、といった質問により、外国人市民が必要としている情報について収集を行った。

やさしい日本語生活情報教材の作成にあたっては、「日本語教育連携の集い」で収集した情報に基づき、教材の項目を選択し、編集を行った。

作成したやさしい日本語生活情報教材を、第2回「日本語教育連携の集い」において紹介し、普段外国人学習者と直接関わっている日本語支援者に理解をしていただくとともに、各日本語教室にも配布し、教材として利用していただくことで、必要な生活情報を外国人市民に行き届かせるための発信を行った。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

地域の日本語教室の連携会議の開催準備にあたっては、地域の日本語教室のコーディネーターの協力を得ながらプログラムを作成し、実際開催した際には、地域の教室からも多く会議に参加していただいた。

「やさしい日本語」の生活情報教材については、地域の日本語教育専門家や、「やさしい日本語」普及事業に実績のある民間団体と連携・協力して作成を行った。

また、日本語教室については、県内の各地で日本語教育を行っている支援者の集合したボランティア団体であるひょうご日本語ボランティアネットワークに委託し、実施した。

また、外国人コミュニティ「ひょうごラテンコミュニティ」の代表である大城ロクサナ氏や、神戸市国際交流推進部、神戸市広報課職員に運営委員に就任いただき、在住外国人支援や行政情報の効果的な発信の視点から随時意見をいただきながら進めた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

2回の「日本語教育連携の集い」の開催や「生活情報教材を活用した日本語教室」の開催にあたっては、地域の日本語教室へのチラシの送付・センターHP掲載・外国人向けメールマガジン・日本語支援者向けメールマガジン・他教室のイベントと連携した相互チラシ配布などにより広報を行った。

事業成果の発信については、「生活情報を活用した日本語教室」の実践結果及び、「やさしい日本語生活情報教材」について、地域の日本語支援者の連絡会議や、日本語支援者の研修の場で発信を行った。

やさしい日本語生活情報教材については、連携会議で市内の日本語教室からの参加者に対して配布・説明を行ったほか、会議に参加できなかった教室にも教材を郵送するとともに活用を依頼し、22の教室に配布を行った。

(6) 改善点, 今後の課題について

地域の日本語教育の体制整備については、今回情報交換・意見交換の会を2回開催し、日本語教室間の連携をはかることができ、また、「生活情報を活用した日本語教室」の実践結果及び「やさしい日本語生活情報教材」について発信を行ったことにより、地域の日本語教育の充実に向けて取り組むことができた。

今後は、他団体の実施する地域の日本語教室間連絡会「地域日本語教室を考える」の開催に協力することなどにより、引き続き地域日本語教室及び支援者のニーズ把握に努め、必要に応じて、地域の日本語教育の充実に資する取り組みを進めていきたい。

(7) その他参考資料

- ・第1回「日本語教育連携の集い」チラシ
- ・日本語教室開催のお知らせ
- ・第2回「日本語教育連携の集い」チラシ
- ・やさしい日本語生活情報教材「神戸の生活」